

私たち一人ひとりの声が大ききな力に！

オンライン署名にご協力をお願いいたします



日本政府に核兵器禁止条約の 署名・批准を求める署名

【署名原文】

被爆75年にあたる2020年10月24日、核兵器禁止条約の発効要件を満たす50カ国の批准書(加入書を含む)が寄託され、2021年1月22日に発効となりました。核兵器の使用が国際法で禁止されたのです。

今や核保有国を含む世界の市民の多くが、核兵器が反人間的兵器で不要なものであることを知るところとなりました。

戦争による核攻撃を受けた唯一の国である日本政府は、核兵器の禁止から廃絶へ、今こそ先頭に立って世界をリードするときです。

私は、日本政府に核兵器禁止条約の署名・批准を求めます。



「核兵器のない平和な世界」を手渡すために、私たち一人ひとりの声を！

2026年8月、広島・長崎への原爆投下から81年を迎え、被爆者の平均年齢も86.66歳となりました。被爆者の方々が「生きているうちに、核兵器のない世界を次の世代に手渡したい」と、命を削る想いで核兵器廃絶を訴え続けるなか、いま世界では核兵器使用の脅威や軍拡への懸念が高まっています。

また、2026年5月22日に閉幕したNPT(核兵器不拡散条約)再検討会議では、3回連続で最終文書の採択に至らず、軍縮への決定的な一步を踏み出せなかったという結果に、強い危機感を覚えます。

世界が平和への道筋を模索する今だからこそ、唯一の戦争被爆国である日本が核兵器禁止条約に署名・批准し、核保有国と非保有国の対話の橋渡しとなることを強く求めます。

未来の子どもたちに「核兵器のない平和な世界」を手渡すために、私たち一人ひとりにできるアクションとして、オンライン署名へのご協力をお願いいたします。

オンライン署名のご案内

オンライン署名フォーム

受付期間 : 9月7日(月)～10月2日(金)まで

★右の二次元コードより署名にご協力をお願いいたします。

※本署名は「一般社団法人東友会」でまとめて、日本原水爆被害者団体協議会(日本被団協)とともに、10月8日(木)に日本政府へ提出します。





「核兵器禁止条約」(TPNW)とは？

核兵器禁止条約(TPNW)は、核兵器の開発、実験、生産、保有、使用、使用の威嚇などを全面的に禁止し、法的に違法化する世界初の国際条約です。2017年7月に国連で採択され、2021年1月22日に発効しました。2026年7月には、参加国・地域数は計100ヵ国(批准75ヵ国、署名25ヵ国)に達しました。

しかし、アメリカ、ロシアをはじめ核兵器を保有する9か国と「核の傘」に依存する日本やNATO加盟国など多くの国が参加していません。



出典：日本生活協同組合連合会HPより



パルシステム東京の平和活動

パルシステム東京は、「『食べもの』『地球環境』『人』を大切に『社会』をつくります」の理念に基づき平和政策を掲げ、子どもたちに安心して手渡せる未来に向けて、戦争の悲惨さや平和の尊さを学び、核なき世界の実現に向けて活動を続けています。

2026年4月にはNPT(核兵器不拡散条約)再検討会議に合わせて日本被団協と全国生協で構成される代表団に職員を派遣し、現地でもとした被爆者の方々との活動から、あらためて「核兵器のない平和な世界」は与えられるものではなく、私たち一人ひとりが作り上げていくものであることを認識しました。

国と国との話し合いが難航する今だからこそ、私たち一人ひとりの声が、何よりも大切な希望です。「被爆者の方々の切実な想い」をしっかり受け止め、組合員とともに「核兵器のない平和な世界」の実現に向けて、一歩ずつ歩みをすすめてまいります。



被爆者はみなさんに語りかけます

広島・長崎で原爆被害を受けた被爆者たちが、これまで訴えてきた言葉の一部を紹介します。核兵器について、戦争について、日本政府や核大国の姿勢について、被爆者の思いを受け止めていただければと思います。

◆核兵器禁止条約は、核兵器を作ること、持つこと、使用することを禁止しており、使用の威嚇(脅かすこと)も全面的に禁止しています。しかし、核保有国や同盟国(日本含む)はこれに参加していません。被爆者は、核兵器を禁止し、廃絶する条約を結ぶことを、全ての国に求めています。世界のどこにも、ふたたび被爆者をつくらせてはいけません。
(広島被爆／男性)

◆原爆を投下したのはアメリカですが、戦争を始めた責任は日本にもあります。この悲劇が起きないため。核兵器のない平和な世界をつくるために日本とアメリカの両国は先頭に立つべきだと考えます。
(長崎被爆／男性)

◆原爆は一瞬の出来事でした。しかし、その時被爆した人は、その人が亡くなるまで一生原爆から離れられません。私たちは長年、核廃絶を訴え、運動を続けています。被爆者に与えられた命の時間は間もなく終わるでしょう。1日も早く核兵器のない世界を実現するために、核兵器廃絶を強く訴えていきたいと思っています。
(長崎被爆／女性)